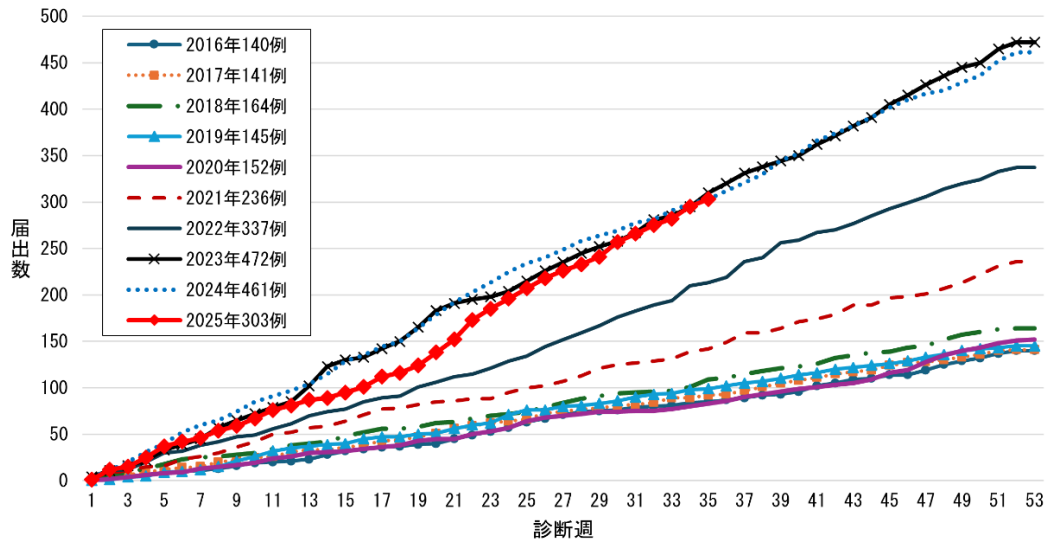


【今週の注目疾患】

《梅毒》

2025 年第 35 週に県内医療機関から 8 例の届出があり、本年の累計は 303 例となった。現行感染症サーベイランスが開始された 1999 年以降で最多の 2023 年と同水準で推移しており、引き続き発生動向に注意が必要である（図 1）。

図1：2016年から2025年第35週までの千葉県の梅毒年別累積届出数（n=2551）



2025 年に届出のあった梅毒 303 例の概要は以下のとおり。

性別では、男性 197 例（65%）、女性 106 例（35%）であった。

年代別では、男性 197 例のうち 40 代が 48 例（24%）と最も多く、次いで 50 代 45 例（23%）、20 代 32 例（16%）と続いた。女性 106 例では 20 代が 54 例（51%）と最も多く、次いで 30 代と 40 代が各 16 例（各 15%）であった。

病型別では、男性 197 例のうち早期顕症梅毒第Ⅰ期（以下、第Ⅰ期）が 104 例（53%）と最も多く、次いで早期顕症梅毒第Ⅱ期（以下、第Ⅱ期）48 例（24%）であった。女性 106 例では第Ⅱ期が 45 例（42%）と最も多く、次いで無症候（無症状病原体保有者）39 例（37%）、第Ⅰ期 19 例（18%）であった（図 2）。

なお、妊婦症例は 13 例あり、先天梅毒は 1 例届出されていた。

図2a：2025年の梅毒年代別病型別届出数（男性n=197）

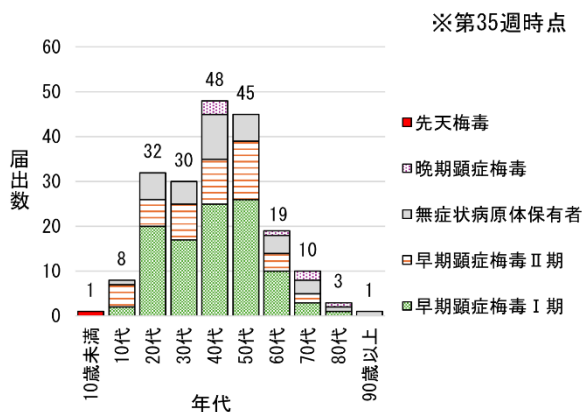
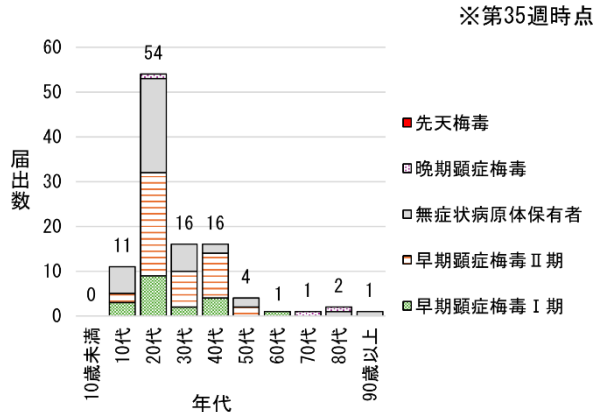


図2b：2025年の梅毒年代別病型別届出数（女性n=106）



梅毒は梅毒トレポネーマ（*Treponema pallidum* subspecies *pallidum*）を病原体とする細菌感染症である。感染経路は菌を排出している感染者との性器や肛門、口腔などの粘膜の接触を伴う性行為によるものである。予防としては、感染者との性行為を避けることが基本となるが、病変の存在に気づかない場合もあるため、性交渉の際にはコンドームを適切に使用することが感染リスクの低減につながる。不特定多数の人との性的接触は感染リスクを高めることから回避することが望ましい。また、症状が消えても感染力が残っていること、梅毒は治癒しても、再度罹患する可能性があることに注意が必要である^{1,2,3)}。

典型的な症例では、梅毒トレポネーマが粘膜や皮膚に侵入すると、2 から 4 週間後に侵入箇所にしこりや潰瘍ができたり、股の付け根の部分（鼠径部）のリンパ節が腫れたりすることもあるが、いずれも痛みを伴わないことが多い（第Ⅰ期）。その後、数週間から数カ月間が経過すると梅毒トレポネーマが全身へ移行し、皮膚や粘膜に発疹を生ずるが、その他にも肝臓、腎臓など全身の臓器に様々な症状を呈することがある（第Ⅱ期）。第Ⅰ期、第Ⅱ期のいずれも、多くの場合、発症から数週間すると、症状は自然に軽快するが、無治療の場合、感染から数年後に、ゴム腫、心血管症状、進行麻痺、脊髄痙（せきずいろう）など晩期顕症梅毒を引き起こすことがある。なお、感染が脳や脊髄に及んだ場合を神経梅毒と呼び、どの病期でも起こりうる^{1,2)}。

妊婦が梅毒に感染すると、胎盤を通じて胎児に感染し、流産、死産、先天梅毒を起こす可能性がある。先天梅毒は多臓器の慢性感染症であり、生後まもなく皮膚病変、肝脾腫、骨軟骨炎などを認める早期先天梅毒と、乳幼児期は症状を示さず、学童期以降に Hutchinson3 徴候（実質性角膜炎、感音性難聴、Hutchinson 歯）を呈する晩期先天梅毒がある。先天梅毒の予防では、妊婦健診におけるスクリーニング検査、早期検査、早期治療が重要である。感染した妊婦への適切な抗菌薬治療によって、母子感染するリスクを下げる事が出来る^{1,4)}。

千葉県では無料・匿名の検査を実施しています

梅毒は早期に適切な治療を受けることで完治可能な疾患です。早期発見・早期治療、そして再感染を予防するためにも、パートナーとともに検査を受けることが推奨されます。

県では保健所等において無料・匿名の検査を実施しています。感染が気になる方や不安なことがある場合には、県ホームページ等でスケジュールをご確認の上、ぜひご利用ください^{2,5)}。

■参考・引用

1) 国立健康危機管理研究機構：梅毒

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ha/syphilis/index.html>

2) 厚生労働省：梅毒に関する Q&A

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryousyphilis_qa.html

3) 厚生労働省：梅毒

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryousyphilis/kenkou/kekkaiku-kansenshou/seikansenshou/syphilis.html

4) 国立健康危機管理研究機構：IASR 44(12), 2023【特集】梅毒 2023 年現在

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/44/526/article/020/index.html>

5) 千葉県：千葉県内のエイズ等相談・検査

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/aids/soudan.html>